平成29年3月24日

多摩六都科学館 及び 多摩六都科学館駐車場
指定管理者

平成29年度　事業計画書

多摩六都科学館 及び 多摩六都科学館駐車場
指定管理者

株式会社 乃村工藝社

目　次

ページ

平成29年度事業の基本方針　1

1章　事業計画　4

1.　科学館事業　（中核事業）　5

2.　地域拠点事業　18

2章　経営管理計画　21

1.　マーケティング　22

2.　管理業務　（運営管理）　25

3.　開館日及び開館時間　26

4.　管理執行体制　28

5.　収支計画　30

6.　自主事業収支計画　32

平成29年度事業の基本方針

はじめに　平成29年度事業計画

1、基本方針　　DO！サイエンス！を基本に『共につくりあげる』=「市民の科学館」 注1

平成26年4月多摩六都科学館は新たに第2次基本計画をスタートさせました。その使命を『多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える**『多様な学びの場を共につくりあげていきます。そして、多摩六都科学館は、活動の幅を拡げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。』**としています。平成29年度はキックオフの3年間をベースに、新たな指定管理の7年間をその総仕上げとして表題の **『共につくりあげる』=「市民の科学館」**を到達目標とし、中核事業と地域拠点事業との相乗効果をあげる、**コミュニケーション・プラットフォーム注2としての機能を果たすべく**的確な事業のデザインとマネジメントを実践します。

2、中核事業　多様な「学びの場」の創出

平成24年度の指定管理制度のスタートとともに、より参加性の高い体験・対話型へと展示形態も更新し、**『DO！サイエンス！』**を旗印に、実感する科学・対話する科学・動詞としての科学を目指してきました。

この「実感する」という社会的ニーズは、平成20年度の文部科学省新学習指導要領・生きる力、理科の項目**①体験活動のなかで、『自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う』**と提示されたものとします。

今年度はこの上位概念である**②言語活動**、『事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える。事実等を解釈するとともに、考えを伝え合うことで、自分の考えや、集団の考えを発展させること』を組み合わせ、対話力の核となる**伝える力の育成**を目指します。これにより科学館での学びを『課題解決型＝アクティブラーニング＝主体的な学び』へ進化させます。

中核事業の中心であった科学実験教室や4つのラボでの観察・実験・工作のプログラムを、中核事業の各ラボ、コア展示、企画展の意味的繋がりとプラネタリウムの進化する生解説でさらなる中核事業の価値を高めます。

3、地域拠点事業　「地域づくり」に貢献

地域拠点事業の柱は、基本理念の**地域コミュニティーの生涯学習拠点となる**にあります。**生涯学習注2**は、いわゆる社会教育(家庭での教育、学校での教育、企業内での教育以外の公共的な場所での教育)、その中でも、学歴社会にかわる生涯学習社会を到達点とする、行政が担うべき教育の事業と定義できます。当館のボランティア会の活動では、集団的な成果が上がりつつありますが、運営側が(スタッフが)、またボランティア会が、自らの活動が**他者が共有できる成果、集団的な成果**になりうるという認識を持つ事が重要で、多摩六都科学館の新10年計画が目指すところの**「地域力」のある『地域づくり』**に直結していることを認識し、意識し活動することが本事業の要となります。

「地域づくり」への貢献では、**地域リテラシーの注3**育成を通じて次世代の人材育成・人づくりが最重点項目となります。そのターゲットは

①ファミリー層　＝　科学館の主要な利用者層

地域コミュニティーの基本単位の構成者であり、利用者の60％以上を占めるファミリー層を、潜在的な地域づくり人と位置づけ、重点ターゲットとします。家族の一体感を大切に、地域コミュニティ再生を意識した施策を展開します。

②ボランティア、市民活動団体、圏域研究機関　＝　科学館のパートナー層

多摩六都科学館ボランティア会及び圏域で活動する市民と研究機関は重要なパートナーです。その活動が地域社会の発展に活かされるよう連携と支援を行います。合わせボランティア活動や市民活動を担う後継者を育成します。

注1:『共につくりあげる』=「市民の科学館／Science Center of the people」

of the people, by the people, for the peopleはリンカーン大統領の言葉。by=市民による科学館やfor=市民のための科学館は自明として理解でき、公共の施設の目指すところでもあります。活動理念の『共につくりあげる』の目指すところは、このbyとforに大きく依存するが、公共の最終着地では、それによって作り上げられた科学館が市民自身に帰属する、of＝自分の科学館という認識を持つにいたるところにあります。

注2:コミュニケーション・プラットフォーム

一般的に博物館の機能は、収集・保存、調査研究、展示教育といった3つの要素に経営・管理を加えて記述されることが多く、これは1980年代以降コレクション中心の博物館の社会における存在理由を理解してもらうために博物館側から提案したものでした。

一方利用者側から博物館を情報蓄積型の社会機関として見た場合そこに期待するものは、文化の持続・継承、豊かな社会の維持、豊かな人生への期待です。従来これらに関する技術・知識・情報などについても博物館内部にある資源という位置づけでしたが、地域に存在する博物館外の資源も含めて社会的資源として利用可能にするという考え方です。この場合この社会的資源にかかわる人々やセクターとセクターをつなぐ場＝コミュニケーション・プラットフォームとして提供できることが新たな機能として期待されています。

（「博物館における連携」『博物館経営論』（放送大学教材）2013年3月を参考に一部改編）

注3:地域リテラシー（科学リテラシーと並び中核事業で育成すべき重点2項目の一つ）

市民が自分の生活する地域に愛着を持てることは豊かな市民生活を送る必須条件といえます。
そのためには、その地域の持つ様々な資源(自然環境や歴史文化・・・)について知ることから始まり、その資源同士のつながりや、自分がそれと深くかかわることのスキル＝地域リテラシーに大きく依存します。多摩六都科学館では地域の科学館として、地域の社会的資源に深く関与しており、この資源を有効に使って圏域の地域リテラシーの育成を高めることを活動の大きな柱としています。

注4;『生涯学習の成果』からアプローチした生涯学習の意味

鈴木眞理著放送大学「現代の社会教育」より以下引用→1999年に出された、生涯学習審議会答申「学習の成果を幅広く生かす一生涯学習の成果を生かすための方策について」では、学習成果を生かすことを①個人のキャリア開発に活かす。②ボランティア活動に活かす。③地域社会の発展に活かす。というように活かし方について、大きく三分類している。この答申は、とかく生涯学習が<u>個人レベルでとらえられがち</u>なことに対して、<u>社会的に意味のある学習の存在</u>を示している点で、重要な論点を提示している。個人が学習した効果は、個人にとどまるだけでなく、<u>他者が共有できる成果、集団的な成果</u>になりうると言う訳である。「地域のコミュニティーの再生が大きな課題」で子どもを心豊かにたくましく育てていくことは、地域の人々皆の願いでもある。このため地域ぐるみで子どもを健やかに育てるための地域活動が極めて重要な課題になってきている。地域にはさまざまな問題「ごみ処理、自然環境の保全、介護・福祉などの様々な現代的、かつ、切実な課題がある」のも事実で、「住民の意識的な問題解決型の学習が重要」となるのである。
こうした学習により、地域に対する住民のマネジメント能力が向上し、それに基づいて住民の社会参加が現実に可能となる。このように住民の力によって地域社会の課題を解決し、地域を再生させる上でも、住民の学習や、学習成果を生かした地域活動への参加が欠かせない」・・・・・・学習の成果が、個人のみに帰属するのではなく、集団・地域にも転化して帰属していくことを考えてみると、目指される生涯学習社会についての議論が深まる・・・・・・。その成果は、地域を超えた、地球規模での成果となることも存在することを想像することはそう困難ではないだろう。これらの「切実な課題」についての学習の成果は、短期間に出現するという性格をもつものではない。学習内容によっては、空間的・時間的に、身近に意味のある成果が出現するわけでもないのである。　引用終

平成29年度事業計画の基本方針

多摩六都科学館の
活動理念
館全体の包括的・長期的
事業目標

科学でつながる
ともにつくりあげる
多摩六都科学館

多摩六都科学館第2次基本計画の使命の『多様な学びの場』の創出、『地域づくり』の支援をめざすため、活動のテーマを引き続き「DO！サイエンス」(*1)とします。利用者自らが積極的かつ主体的に関わり、スタッフとともに「科学する」を実感できる場と機会の提供をめざします。
今後は、「市民の科学館／Science Center of the people」(*2)を到達点とし、事業展開をめざします。

科学館事業(中核事業)

事業目標1
科学を楽しみ
世界と向き合う

科学の楽しさを実感できる学びの場づくり

中核事業の活動のテーマでもある「DO！サイエンス」とは、「実感を伴った理解を図る学習活動」(*3)の提供であり、観察・実験・工作といった体験的な活動を重視することです。
多摩六都科学館の新10年計画（第2次基本計画）の使命として掲げられた『多様な「学びの場」の創出』と、科学館事業目標である圏域市民の「科学リテラシーを高める」を達成させるためには、科学館活動のすべてを「実感の場と機会を提供する」ことに収斂することによって実現できると考えられます。この実感を提供できるよう、標本・装置の充実、専門性とエンジョイメントの両立、参加体験でのコミュニケーションのさらなる充実をめざします。

地域拠点事業

事業目標2
多摩六都の
交流拠点

幅広い年齢層が科学を仲立ちとして交流・連携する場の創出

多摩六都科学館は、生涯学習施設としての機能強化が求められています。これまで同様、ボランティア活動やキャリア教育の支援など、圏域市民が様々な立場で交流できる場づくりに努めます。また。今後は友の会会員とも「ともにつくりあげる」関係づくりを進めます。
子どもだけでなく、幅広い年齢層が気軽に利用できる機会や学びの場を市民とともにつくりあげていきます。

事業目標3
多摩六都の
魅力発信

地域資源や市民をつなぐ場／コミュニケーション・プラットフォーム(*4)へと進化

展示や調査研究活動などを行う際、地域資源の価値発掘と魅力発信も視野に入れて活動を行い、圏域市民の「地域リテラシー」(*5)の醸成を図ります。また、「地域参画力」のある人材育成も行いながら、多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。
将来、科学教育のためのコンテンツやプログラムをオープン・データ化できるよう、開発を進めます。

経営管理

事業目標4
愛着の持てる
ロクトへ

「利用者中心」に一元化されたコミュニケーションマネジメント(*6)によるマーケティングの展開

コミュニケーションを重視した「DO！サイエンス」をさらに充実するため、最有力顧客であるファミリー層と、開発目標のシニア層をターゲットとした市場調査を行い、サービスの最適化を図ります。また、事業評価を的確にフィードバックし、サービス内容のさらなる向上につなげます。これらのサービスをターゲットマッチングを意識してタイムリーな広報・PR活動を行います。
今後も、アテンドや広報だけでなく、すべての科学館活動を「利用者中心」に一元化したコミュニケーションマネジメントを行います。

事業目標5
持続可能な
しくみづくりを

顧客満足度を高め、地域づくりの基盤となる体制整備

企画展の成果物を常設展示に活用できるなど、的確な企画計画予算計画を練り上げ、実施します。また、地域拠点事業充実のため広域連携活動助成金などの資金調達にも取り組みます。
また、顧客満足度の高いコミュニケーションサービスが達成できるよう、目標設定方式による人事評価を導入し、スタッフのコミュニケーションスキルの向上を図ります。また、地域づくりのための体制やネットワークの構築も活動しつつ、進めていきます。

１章　事業計画

1. 科学館事業（中核事業）

理工系、自然史系両分野の展示物や実物標本を備えた常設展示室と、世界最大級のドーム径に最新鋭の投影機を備えたプラネタリウムドームという、恵まれた条件を備えた総合科学館として、圏域5市から広くは多摩エリアに住む人々に楽しみながら科学に親しむ機会を提供し、様々な体験を通じて興味をより深めることを目指します。

利用者の様々な興味、年齢、利用形態に応じた多様なコンテンツを館スタッフが企画・開発してニーズに応えるとともに、科学館での体験を重ねることでより主体的な学びに進む、生涯学習の流れも作ります。また、「連携」「交流」「成長」の理念に基づきながら、自然科学分野はもちろん、アート等、異分野とコラボレートした企画にも取り組み、多摩地域の文化発信地としての存在感も高めます。

（1）調査研究・収集保存活動（調査研究・資料収集業務）＊

地域の身近な自然への理解を深めることを目的に、専門家や市民と連携して行われてきた調査・研究活動を継続して実施します。

圏域5市の自然環境調査において必要な資料や標本を収集し、適切な処理により管理保管を行い保護・保全します。また、市民や研究機関等からの寄贈または寄託の申し出のあった資料を調査・評価等を踏まえて受け入れ、整理・同定・登録作業を行います。受入資料は積極的に公開します。

＜調査・研究活動＞

名　称	テーマ・内容	目　標
地学系 調査・研究	関東ローム、多摩川の礫等、地域の地質をテーマにした調査・研究活動を行う。 地学ニューズレター発行	ニューズレター年2回発行
生物系 調査・研究	科学館の敷地内の動植物の調査、情報発信を行う。 市民による東大農場・演習林での動植物調査への協力、情報発信を行う。	専門家による昆虫および植物等の定期調査の実施。 ビオトープの設置および生きもの情報の発信。

＜寄贈品の整理・リスト作成＞

名　称	テーマ・内容	目　標
既存コレクションの登録・公開	未整理の寄贈標本のリストを作成し、展示・貸し出し等活用可能な形に整理する。	舟木鉱物コレクションの一部入替え。
新規標本	市民等からの標本寄贈の申し出への対応。情報発信。	適宜受入し、登録管理の他、情報発信に努める。

（2）展示活動（展示業務）

常設展示については、各部屋で何がコアなのかを意識し、不足しているもの、更新すべきもの、残すべきものを常に考慮し、企画展の成果物を常設展示化し常設展示更新を効果的に進めます。

つながり展示については、つながりの意味付けや、意味ある連携を意識し、科学的な情報と共に地域の魅力発信につなげます。

企画展示については、「DO!サイエンス！」を進化させつつ、計画段階から常設展示の展示更新を念頭に置き、計画的に実施します。

① 常設展示（常設展示学習）

「チャレンジ」「からだ」「しくみ」「自然」「地球」の5部屋で構成された常設の展示室は、それぞれの部屋でハンズオン展示物や実物標本等を通じて、利用者が自分の身の回りにあるモノ・コトや意味を科学の目で見つめ、日常の中の科学を発見し、自分で「科学する」ことに楽しみを見いだすことをねらいとしています。

科学の入り口としての役割とともに、各展示室の解説スタッフや科学館ボランティアとの対話・交流や、体験性を高める展示物によって、実感をともなった理解や、より専門的な知見に触れる場を提供します。

その他、展示室2・3・4・5の4部屋には「つながるスポット」という展示エリアを設け、企業や研究施設、地域団体・市民との連携をベースとした展示・関連情報提供を行い、地域の科学情報発信の場となります。

この“つながり”をキーワードに、どの展示室でも、テーマ展示の更新やスタッフによるインタープリテーション等、常に新鮮な印象を持てるような変化や成長を実践します。

また、展示品は点検・整備を行い常時利用者が安全に体験できるようにします。特に故障により利用者が危険に晒される可能性のある乗り物系展示物は、予防保全を徹底します。

○常設展示室面積　　2,003.22平方メートル
○常設展示物数　　約110点（その他、標本等一次資料約800点）

名　称	テーマ・内容	目　標
常設展示室でのコミュニケーション活動	開館時は展示室にスタッフが常駐し、利用者とのコミュニケーションを通じて科学への興味喚起や専門情報の提供を行う。 ・展示解説、展示物操作、安全管理 ・ラボ、ワークショップ等による展示活性化 ・解説パネル、補助展示物・標本等の随時更新 ・クイズラリー運営 ・企画展の成果物（新規展示や模型・映像コンテンツ等）の常設展示活用 ・展示ツアーやギャラリートークの実施	科学館内のアンケートの「満足度調査」での満足度80％以上。
つながるスポット★	展示室2・3・4・5各室に企業、研究施設、地域団体・市民との連携した展示を行うエリアを設け、科学や地域の情報を発信する。	各展示室、年1回以上展示物もしくは展示テーマを入れ替え、常設展示室を活性化する。

★：地域拠点事業としても機能している活動

名　称	テーマ･内容	目　標
チャレンジの部屋	科学の基本的な方法や、科学的なものの見方を伝え、世界と向き合う土台をつくる。研究機関との連携により科学の実践について紹介する。 （テーマ：光の性質、運動の法則、原子・元素・モノの素、宇宙への挑戦）	素粒子展示コーナーの新設を視野に入れた展示構成の見直し。
からだの部屋	人間のからだに関する最新で科学的な知見の共有と体験の提供を行う。「だれもが生き生きと暮らせる地域の創造」にむけたプロジェクト「健康からだづくり（仮）」を試行する。 「あそび」を通じた生涯教育の交流の場となる。 （テーマ：からだのつくり、五感、人間と進化、人間とあそび）	つながるスポット更新★ （明治薬科大学、テーマ：健康） ・「かおりあてクイズ」「触覚ゲーム」内容の更新 ・カプラを用いた新規プログラムの開発と試行
しくみの部屋	地域のものづくりの紹介や新規展示により身の回りのもののしくみ（メカニズム）への興味を喚起する。圏域の都市基盤（インフラ）について知り、持続可能な社会や防災への視点をつくる。 （テーマ：機械のしくみ/ギア/モーター/てこ/磁石/振動、社会のしくみ/エネルギー/電気/ガス/水道）	つながるスポットの更新★ （ブリヂストン、テーマ：エコタイヤの発展と社会環境（仮）等） ・新規展示物追加（地域の技術者にスポットをあてた多摩六都のモノづくり（仮））★
自然の部屋	身近に見られる生きものを圏域の緑・水辺環境と関連付けて紹介し、地域の再発見・再評価につなげる。あわせて地域の自然保護等の活動をする人々を紹介する。 （テーマ：身近ないきもの、圏域の自然環境、生体・実物標本、市民コレクション）	つながるスポット更新★ （DAIWA・川づくり清瀬の会） ・月１回展示解説ツアーの試行
地球の部屋	多摩地域に特徴的な地質についてとりあげ、地域の地史を伝える。また豊富な実物標本も用いて、地域の環境を通じて地質学・地球科学の基礎を学ぶことができる地域の地学学習の拠点となる。 （テーマ：地質学入門、多摩の地形・地質の特徴、鉱物・岩石・化石実物標本）	つながるスポット更新 （安山岩の展示） ・新規展示物（日本の石シリーズ） ・協定先の極地研究所より希少価値の高い隕石標本を借用し展示

★：地域拠点事業としても機能している活動

② 企画展示（企画展示学習業務）

旬の情報・トピックや世代・時代を超えて人気の高いテーマを特集する特別企画展を、ゴールデンウィーク、夏休みなどの多客期を中心に実施します。内容によっては常設展示との関連を意図して、常設展示室内での同時展開を含めて実施します。

企画展示においてもインタラクティブな体験要素や「連携」「交流」「成長」といった視点は重視し、テーマに興味を持った新規利用者を呼び込むことに加え、繰り返し利用者（リピーター）増による幅広い集客と、科学館から外に向けての専門性／地域情報の発信力強化を実現します。

○イベントホール面積　　約120平方メートル

名　称	テーマ・内容	目　標
春の特別企画展 「Zoooooom! ～みるみる大きくしてみると？～」	4月1日（土）～5月7日（日）　22日間 （全開催期間：平成29年3月18日（土）～5月7日（日）　36日間　※一部閉場あり）	観察することの楽しさと、科学の世界観の変容を伝えることを目的とし、科学館内アンケートの「満足度80％以上を、目標とする。期間中のイベント会場来場者数30,000人以上。
夏の特別企画展 「パズル展」（仮）	7月15日（土）～9月3日（日） ※9月1日（金）は休館	主に集客を目的としたイベントとして開催。科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。 期間中のイベント会場来場者数40,000人以上。
秋の特別企画展 「食・食べる・からだ展」（仮）	平成29年　秋季に開催。 内容・期間は、未定。	現時点で企画内容は未定だが、科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。
冬の特別企画展 「ロクトロボットパーク」（仮）	ロボットの操縦体験や実演ショーなど、ロボット技術に触れ親しむ機会を提供する。 平成29年～30年　冬休み期間中に開催。	主に集客を目的としたイベントとして開催。科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。
春の特別企画展	平成30年3月　春休み期間中に開催。 テーマ・内容・期間は、未定。	現時点でテーマ企画内容は未定だが、科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。

（3）天文映像活動（天文映像事業）

「実感を伴った理解」につなげていくためには、体験してもらうことが一番です。しかし、天文・宇宙の学習は実体験してもらうことが困難な分野です。そこで、まずは星空や映像を見ながら専門的な解説を聞くことによって興味を持って覚えてもらうことを目指します。ただし、ただ見るのではなく当館が誇る世界最大級のプラネタリウムドームという空間を活用して、東京では見ることができない満天の星や、まるで映像の中に入り込んだような体験など、ワクワクする非日常の映像体験を提供することによって楽しみながら「実感を伴った学習活動」へつなげていくことを目標とします。

① プラネタリウム

世界で最も先進的なプラネタリウムに認定された光学式プラネタリウムを活用して、まずプラネタリウム自体を楽しんでもらい、本物の星空を眺めるきっかけとし、日々新しい発見があるエキサイティングな分野である天文・宇宙の楽しさを伝えます。 そのための手法として解説員が直接話しかける「生解説」を行うことにより、利用者とやりとりすることで「実感を伴った学習活動」へとつなげるとともに、新しい知見をいち早く紹介します。

一方で、プラネタリウムに対して利用者が求められていることは、星座の見つけ方から宇宙論に至るまで多岐にわたります。そこで、様々なニーズに応えるため、伝統的な星座解説に加え、約2か月ごとにテーマを変えることで満足度の向上を目指します。

また、科学館周辺の風景とともに圏域5市から見ることができる「光害」の星空を投影し、地域に密着した生解説も行います。無駄な街灯りを消すことによって圏域市の星空を少しでも取り戻せることを啓発していきます。

名　称	テーマ・内容	目　標
一般プラネタリウム	季節の話題や、その時節の話題をテーマとした解説と、今夜の星空生解説（全編生解説）。テーマは適宜更新し、年間6本程度を予定。 また、星空解説の補助として、月ごとの星図を記した「星空案内」を毎月作成・配布する。	科学館内アンケートの「満足度調査」での満足度80％以上を目標とする。 また、今年度は東久留米市在のアーティスト大小島氏の星座絵を活用することにより、地域を意識した投影を行う。
キッズプラネタリウム	未就学児や小学校低学年とその家族向けのプログラム。短編アニメーションなどと星空生解説を組み合わせて投影する。	
特別プラネタリウム	お盆等、特別な日限定で特別プログラムのプラネタリウム等を実施する。	

② 大型映像　（映像体験学習）

大型映像は、巨大スクリーンであるドーム空間で、自然や宇宙の迫力ある映像とストーリーを鑑賞することで、強い感動と独自の視覚体験を得ることができます。平成24年度に新規導入された高性能ビデオプロジェクターによる高精細デジタル映像投映装置と世界最大級のドームスクリーンによって、あたかも映像に入り込んでしまったかのような感覚を味わえます。映像をただ「見る」のではなく「体感」することによって、専門的な知識を映像とストーリーを楽しみながら「実感を伴った学習理解」になることを目指します。

年間3作品程度を選定し上映します。

（4）参加体験型学習活動（学習業務）

他館にも例のない、多種多様な体験性の高いプログラムを実施して、世代を問わず「実感を伴った理解」が得られる機会と場を提供します。

さまざまな年齢、興味に応じたプログラムを科学館の教育スタッフや科学館ボランティア、また専門家と連携して実施し、ニーズに応えます。

科学館での学びの中核をなすプログラムとして、専門の指導者や科学館の教育スタッフが科学教室やワークショップを実施します。その中でも特に以下のポイントを重視して、事業を展開します。

・実感を伴った理解や自律的な発見を重視

子どもの理科離れ対策や成人の生涯学習の方法として特に有効なのが、学習主体と知識や技能が関連付けられ、実感を伴った理解や自律的な発見ができる体験学習です。教育スタッフがファシリテーターとなり、サイエンス（理工）、自然、天文のそれぞれの分野で、参加対象者に応じた指導方法や学習形態を細かく組み立て、学習者が自然や物質、生命、環境との関わりに気づき、主体的な意識で学びに向かう場づくりを日々発展させます。

・DO！ サイエンスの基礎　＜実験＞＜工作＞＜観察＞＜天文＞ 4つの学びのカテゴリー

科学学習室と各展示室のラボのプログラムは、科学することの基本となるこの 4つのカテゴリーで展開します。入門的内容から発展的内容へのつながりやフィールドでの実体験も意識して、学習者の学びの成長を促します。

・学びの多様性

多様な参加者が集い、共に学ぶ環境を築くことで、地域のグループ学習の場を形成し、参加型学習プログラムの更なる多様性を生み出します。

・安全管理

設備・機器・薬品等の管理を徹底し、参加者が安心して実験や工作に携われるように図ります。

① 参加体験型プログラム

参加者が機器の操作や工作等を直接体験できるプログラムを＜実験＞＜工作＞＜観察＞といった科学することの基本要素と、個人では体験しにくい＜天文＞の4ジャンルで展開します。それぞれ入門的内容から発展的内容までラインナップすることで、科学好きを育てる流れをつくります。

＜実験＞

名　称	テーマ・内容	目　標
入門的内容	簡単な体験やサイエンスショーを通して、身近な科学現象について知り、科学の面白さに触れる。	利用者が気軽に科学体験できる機会を提供し、科学への興味を引き出す。 年80日程度実施 体験人数80,000人以上
発展的内容	実験を通して科学的な視点や技術を身に着け、テーマを掘り下げて考える。	リピーターや科学に興味がある方へ実習機会を提供し、科学好きをそだてる場となる。 年20日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上

＜工作＞

名　称	テーマ・内容	目　標
入門的内容	簡単な科学おもちゃやネイチャークラフトなどの工作をすることで、ものづくりの楽しさ、科学・自然の面白さに触れる。	利用者が気軽に工作できる機会を提供し、ものづくりへの興味を引き出す。 年100日程度実施 体験人数10,000人
発展的内容	ものづくりに取り組むことで、機械などのしくみやつくりを知り、創意工夫する楽しさを知る。	科学工作にじっくり取り組む機会を提供し、ものづくりの知識・技術も習得できる場とする。 年20日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上

＜観察＞

名　称	テーマ・内容	目　標
入門的内容	顕微鏡をのぞく、身近な石や生きものをじっくり見る、といった体験から、自然界にあるものへの興味を持ち、観察の視点を得る。	利用者が気軽に観察できる機会を提供し、身近な環境を見つめるきっかけをつくる。 年80日程度実施 体験人数10, 000人
発展的内容	生物・地学分野の観察や標本作成に必要な基本技術を習得し、自然を読み解く力・観察眼を養う定員制教室を実施する。	地学・生物学に興味がある方へ実習機会を提供し、専門知識・技術を学べる場となる。 年80日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上
野外観察会★	専門家から指導を受けながら、動植物の観察や岩石・鉱物の採集、地形・地質の観察を行い、本物に触れて理解する。	フィールド学習で観察眼を養うとともに、地域の自然の価値を伝える。 年8日程度実施 応募率80％以上 満足度80％以上

＜天文＞

名　称	テーマ・内容	目　標
天体観望会	時節の見ごろの星座や天体を野外で実際に望遠鏡や双眼鏡で観察して宇宙への興味を深める。 年間12回程度実施	イベント終了後のアンケート結果にて「満足度」80%以上を目標とする。

★：地域拠点事業としても機能している活動

② 講演会・サイエンスカフェ

自然科学に限らず、当館の髙柳館長を含む幅広い分野の専門家を迎え、科学に対する知見をより深める講演会や、参加者と演者がインタラクティブに意見を交わせるサイエンスカフェを年間12回程度開催します。主に中学生以上の成人層をターゲットとし、市民が専門家と交流する場をつくり、生涯学習の場としての多摩六都科学館の価値向上を進めます。

③ 長期的な学習支援・人材育成（育成・学習支援）

科学館の活動を通じてより深く科学に興味を持ち、発展的な学習を求める児童・生徒や、生涯学習として研究・調査等の活動を進めたいと思う市民に対し、学習機会や活動スペース及び資料を提供し、その学びを支援します。

また、主に近隣市民に学びの場を提供することにより、見知らぬ市民同士が科学という共通の文化を通して、新たな住民ネットワークを形作るきっかけを作ります。

今後、天文系だけではなく、生物系、地学系や物理・化学系と言った分野でのクラブサービスの提供を進めます。

名　称	テーマ・内容	目　標
天文クラブ	天文学について掘り下げて学び、屋外で本物の星空を見ることにより、青少年の天文に関する自発的な学習を支援する。	イベント終了後のアンケート結果にて「満足度」80%以上を目標とする。

（5）学校団体を対象とした学習支援活動（学校連携・支援）

科学館の持つ専門性やプログラム、装置や標本等のコンテンツを活かして、学校では実施の難しい要素をもった授業の補完となるプログラムを提供します。また児童の学習だけでなく、研修の開催や教材貸し出し等、指導者の支援となる事業も実施し、地域の「頼れる施設」となることを目指します。

また、自主的な学習利用については、高学年、中高大、シニア向けも考慮し、中核事業の内容を効率的・友好的に活用する学習プログラムと解説の手引きを用意すると共に、この内容を学習の手引きとホームページに的確に反映し学習利用はもちろん教員や生徒の自主的な利用を促します。

① 学習投影

学校内では実施の難しい要素をもった授業の補完となる事業を実施します。小中学校の校外学習として重視されてきた天文の学習投影では、プラネタリウムのデジタルハイブリッドの特性を活かして、興味を持ちやすい内容で、よりわかりやすく行います。基本的に学習指導要領に則って投影しますが、学校の実情に合わせて柔軟できめ細かい対応を取っていきます。

また、事前学習や来館後の振り返りに活用できるような資料の提供も行います。

尚、今年度より、学習効果の把握や内容の改善を図るため、引率者へのアンケート調査を行い、結果を今後の学習投影に反映していきます。

名　称	テーマ・内容	目　標
学習投影番組1	小学4年生向け学習投影（生解説＋オリジナルオート番組） 太陽の動き、星の動き、夏または冬の星座（選択制）、月の動き、月の形、月に関する発展学習。	先生・引率者に配布するアンケート結果の「満足度」80％を目標とする。
学習投影番組2	小学6年生向け学習投影（生解説＋オリジナルオート番組） 今夜の星空（星座）解説、月の満ち欠けのしくみ、太陽系惑星に関する発展学習。	
学習投影番組3	小学4年生、6年生以外（中学校含む）の団体用投影 教員・学校の要望により投影内容を独自にカスタマイズして実施する（中学校には今夜の星空とコズミックコリジョンズを推奨）。	
幼児団体 投影番組	幼児団体向けに今夜の星空生解説とオリジナルオート番組を投影（計約35分）。	
団体用英語 投影番組	四季の星座解説（英語録音テープ解説）＋コズミックコリジョンズ（英語版：ナレーション／ロバート・レッドフォード）。	
プラネタリウム 学習のしおり	小学4年生向けプラネタリウム学習投影を利用する学校向けのプラネタリム学習のしおりの提供。	

② 学習プログラム

圏域5市の小学校の科学館利用時に児童・生徒がより「実感をともなう理解」ができるよう、体験性の高い学習プログラムを提供します。学習プログラムでは、学校内の理科室ではできないような道具・スペースを使った発展的内容の実験・観察等を実施していきます。

名　称	テーマ・内容	目　標
予約制学習 プログラム	体験性の高い予約制の実験・観察プログラムを提供する。 A:【実験】電気“きせかえ”実験場 B:【展示解説】地域の自然に目を向けよう C:【実験ショー】空気の性質をたしかめよう！ D:【講座】くらしを支えるエネルギー（東京ガス㈱） E:【実験】燃料電池って何だろう（東京ガス㈱） F:【野外観察】東大田無演習林観察会　※西東京市限定	先生・引率者に配布するアンケート結果の「満足度」80%以上を目標とする。
予約不要 ラボプログラム	常設展示室の各ラボで、自由参加形式の実験・観察プログラムを提供する。 しくみラボ 「わくわく実験TIME」 しぜん・ちきゅうラボ 「観察ひろば」	先生・引率者に配布するアンケート結果の「満足度」80%以上を目標とする。

③ 展示学習支援

児童・生徒の常設展示室見学がより有意義なものになるよう、ワークシート等の支援ツールを提供するほか、圏域の小学校利用を対象に、実地踏査時、展示室の見どころや見学方法をツアー形式で解説することで、学校の校外学習の支援および展示見学の価値を広めます。

名　称	テーマ・内容	目　標
見学支援ツール	展示ワークシート、展示室見どころマップ等のツールを作製し提供する。	ワークシートの改良を行う。 先生・引率者に配布するアンケート結果の「満足度」80%以上を目標とする。

④ アウトリーチ活動（学校における学習の支援）★

科学館ならではのコンテンツを圏域5市の小中学校に提供し、地域の理科学習を支援します。

立地、財政的条件等により来館が困難なエリアに対しては科学館のコンテンツを出前し、地域の科学力向上に貢献します。また、学校単位でそろえることが困難な地学標本や生物資料の貸し出し／提供を行い、指導者を支援するとともに授業の内容向上に貢献します。

名　称	テーマ・内容	目　標
児童・生徒へのアウトリーチ	平日、圏域5市の小中学校に出向いて、実験ショーや、ボランティアの協力による工作教室など、学校に向けたアウトリーチ活動を行う。 リクエストに応じて都度実施。	立地等の制限で科学館に来にくい学校等への案内を強化し、実効性を上げる対応を行う。 地域の学校ニーズを把握し、アウトリーチのスタイルを固める。
校外学習支援	学校が行う総合学習や地域学習の実施に協力する。	総合的に学習を支援し、利用校の高い満足度を得ると共に、地域の科学力向上へ貢献する。 圏域5市内の学校、教育委員会との連携を強化する。
資料提供・貸し出し	多摩川の小石の学習キットの貸し出しや、プランクトンのサンプル提供等による、学習支援を行う。	貸出は随時対応する。 教員向けの研修会等で貸し出し・提供の案内をし、認知度を上げる。

★：地域拠点事業としても機能している活動

（6）人材育成・研修活動

① 教員研修★

指導者養成の専門機関と連携して教員向けの研修会を開催し、地域の指導力向上へ貢献します。また、地域の指導者どうしの学習会等の開催にも協力し、地域の理科力向上や指導者のネットワークづくりを支援します。

名　称	テーマ・内容	目　標
東京都 教職員研修	東京都教職員研修センターと連携し、東京都教職員を対象に、生活科・理科の研修講座を開催。	東京都教職員センターとの連携強化と、参加者からの学校現場における課題の情報収集。 また、本研修を今後も科学館で開催できる環境をさらに整える。
学芸大 教員セミナー	東京学芸大学高度支援センターと連携し、主に圏域5市の小中学校の教員を対象に、教員向けの研修講座を開催。	東京学芸大学との連携強化。 参加者アンケートからの課題・ニーズ等今後の学校支援のための情報を収集する。
教員の学習会等の支援	各市小中学校の理科部会の研修会や自主勉強会の開催などに対し、コンテンツや場の提供を行う。 随時対応	前年度利用市の継続利用を推進。 各市小中学校理科部会への科学館のコンテンツ・協力体制等の認知を高めるとともに、学校支援のための情報を収集する。

② キャリア教育（その他研修等受け入れ等）★

地域の公共施設として、また科学の専門施設として、キャリア教育の一環となる実習等を受け入れ、次の世代を担う人づくりにも貢献します。

名　称	テーマ・内容	目　標
職場体験	中学生のキャリア教育として、圏域5市の学校と連携して実施する。	希望する生徒を可能な限り受け入れる。 受入校数8校以上。
博物館実習	博物館実習生への専門教育として、学芸員課程履修者の学生に対し館務の実践的研修を行う。	3～4名を目途に希望者を受け入れる。 講座を希望する大学へは随時対応する。
インターンシップ	主に大学生の職業体験機会として、大学と連携して希望者を受け入れる。	2～3名を目途に希望者を受け入れる。

★：地域拠点事業としても機能している活動

（7）研究機関・関連団体との連携活動

① 研究機関等と連携した講演会・サイエンスカフェの実施

自然科学研究機構や高エネルギー加速器研究機構をはじめ、研究機関で行われている最先端の研究を発信する場として、展示やイベントなどを企画していきます。幅広い分野の専門家を迎え、科学に対する知見をより深める講演会やサイエンスカフェを年間12回程度開催します。主に中学生以上の成人層をターゲットとし、市民が専門家と交流する場をつくり、生涯学習の場としての価値向上を進めます。 さらに最先端研究施設、国立天文台、KEK、カブリIPMU、東大宇宙線研、極地研、NICTとの連携も、先方の社会連携ニーズを効果的にとらえ、当館ならでの差別化イベントを戦略的に打っていきます。

② 関連団体等との連携・交流

他の科学館・博物館や各種関連団体と連携することにより、博物館事業における共通課題や解決案を共有し、お互いにとって良好な協力関係を築いていきます。

2. 地域拠点事業

当館は、多摩六都圏域の生涯学習拠点として「多様な学びの場」を創造し、「地域づくり」に貢献することを目指します。地域拠点事業は、科学だけに止まらず、広範囲な文化の領域にも貢献できるよう、活動を進めていきます。

下の図からも明らかなように、科学館事業と地域拠点事業は一体的なものであり、科学館事業のさまざまな場面に地域拠点的な要素が含まれています。

＜中核事業と地域拠点事業　関連図／マトリックス＞ ※平成28年度までの事例の一部を記載

		地域拠点事業 ※ボランティア会との協働は全ての項目に関連
科学館事業（中核事業）	（1）調査研究・収集保存活動	柳瀬川、西原自然公園での市民団体との協働 櫻井蝶コレクションなど標本の整理
	（2）展示活動	常設展、企画展における企業等との連携 東京の自然史、相澤ロボットなど
	（3）天文映像活動	協定連携先との連携 圏域の文化財の活用
	（4）参加体験型学習活動	落合川などにおける自然観察会実施 多摩北部広域子ども体験塾など
	（5）学校団体を対象とした学習支援活動	モデル事例構築（本町小など） 教員とのコミュニケーション強化
	（6）人材育成・研修活動	東京学芸大学と共催する教員セミナー実施
	（7）研究機関・関連団体との連携活動	東大生態調和農学機構との連携 東京都三多摩公立博物館協議会などへの参画

（1）地域の交流拠点活動

① 地域連携による活動

●多摩六都圏域における連携・交流

圏域5市の行政や学校、研究機関、企業、NPO、その他の団体及び個人と連携し、地域における新たな学習機会の創造や地域情報の発信などを担う、地域拠点としての役割を高めていきます。

●多摩北部広域子ども体験塾

東京都の多摩北部広域連携活動として、圏域5市で実施する事業（多摩北部広域子ども体験塾）に協力します。圏域5市の魅力や特色などを科学の視点から取り上げ、子どもたちが参加できるプログラムを企画・運営します。

② 多摩六都科学館ボランティア会との協働

当館は、多様な「学びの場」をつくっていくパートナーとして、ボランティア会の活動の持続的な発展のために、同会との連携を深めます。また、ボランティア会のメンバーが主体的に活動できるよう、より自立的な関係をつくります。館職員との協働により、それぞれの専門性を引き出していきます。

（2）地域資源創造・魅力発信活動

地域資源を活かした様々な企画や展示教育活動を展開し、その情報を積極的に発信していきます。多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。

（3）カフェテリアの運営

「あなただけの『今』と『ここ』のある　人と人がつながるカフェ」をコンセプトに、(株)にわと蔵をカフェテリア運営のパートナーとして、多摩六都地域の食と農の文化を発展に寄与することを目指します。

① 概要

・営業日数及び営業時間

営業日数：300日　　営業時間：10時00分～17時00分

・席数

屋内テーブル席：46席　　屋外テラス席：12席　　※テラス席は晴天時のみ利用可

② メニュー

地域の食材を取り入れ、子どもにも安心して食べられる、母親目線での手作り料理を提供します。
（メインメニュー：1,000円　付帯メニュー：200円～）

③ 繁忙期対策

テイクアウトメニューを用意し、店内に限らず、休憩室、館庭でも食事を楽しめるよう運営を行います。
また、館庭にキッチンカー等を誘致し、利用者の分散を図ることで、利用者の満足度を担保します。

（4）ミュージアムショップの運営

① 概要

営業日数:300日　営業時間:科学館の開館時間に準ずる

② 商品構成

ターゲットとする利用者の層に応じて、科学雑貨、実験グッズなどを中心に関連書籍、星座関係、恐竜、生き物（昆虫など）に関する商品を幅広く揃えます。

また、オリジナルグッズの企画と販売も行います。

③ 圏域の事業者との連携

圏域を中心に活動している事業者・個人と連携し、圏域の物産品の販売や地域の産業振興に努めます。

2章　経営管理計画

1. マーケティング

利用者中心の視点に基づいたマーケティングを実践します。利用者セグメントに合わせて、コンテンツ展開及び広報を行うことで、科学館と利用者とのより良い関係を継続的に構築し、高い満足度を達成するよう努めます。平成29年度は年間利用者数21.5万人以上を目指します。

（1）顧客開発

① 新規利用者の開拓

新たな利用者を増加させる施策として、前年度から引き続き、圏域5市の未利用者（特にファミリー層及び学生、60代70代のアクティブシニア層）を対象とした顧客開発を行います。

・圏域新小学1年生への「入学祝招待券」の配布
・10月～12月の60歳以上割引キャンペーン
・2月～3月の学割キャンペーン
・圏域5市の中で利用率の低い西武池袋線沿線エリアを中心とした誘客活動

また、カフェ事業者と連携し、平日利用の高付加価値化に取り組むほか、休日の来館手段として公共交通機関(はなバス等)の利用を促進します。

② リピート利用の促進

従来の「サイエンス友の会」を年間フリーパスと、ロクトメンバーズに切り分ける再編を行うと同時に、多摩六都圏域の市民に対する割引制度を設け、リピート利用の促進を図ります。年間フリーパスを購入された方は、加入日から1年間、入館無料となります。

ロクトメンバーズでは年度ごとに会員を募集し、大型映像試写会などの限定（優先）プログラムや提携しているほか施設の入館料の割引といった特典を受けることができます。また、会員との関係づくりに努め、市民モニターとして事業に参画していただける機会を作ります。

年間フリーパス料金

	一般	圏域市民
大人	2,000円	1,500円
小人	800円	600円

ロクトメンバーズ入会費

	一般	圏域市民
大人	1,000円	750円
小人	400円	300円

（2）市場調査

① 市場及び利用者調査

前年度から引き続き、全利用者の約1％を対象にランダムサンプリングによるアンケート調査を行います。入館時に記録している利用者データとの整合性など、適宜見直しを行い、より信頼性の高いデータを収集します。得られた調査結果をもとに、利用者の属性および満足度等を的確に把握し、集客戦略の立案や事業運営に活用します。

② 未利用者調査、非利用者調査

未利用者調査を適宜実施し、より正確な未利用者の状況を把握します。また、過去に来館経験があるものの非利用者となった層への来館促進策を検討します。

（3）広報

様々な媒体を複合的に活用し、科学館の認知度向上とブランディング、利用者増加を図ります。マスメディア向けの広報にも注力し、戦略的な情報発信を行います。

① 紙媒体の活用

事　項	内　容	目　標
ロクトニュース	科学館の事業の全体的な広報を行う。	年間5回、小学校を中心に圏域5市や近隣市に配布する。科学館事業全般に関する周知を図る。
ポスター、チラシ	科学館の主要事業の集客のための広報をタイムリーに行う。	特別企画展や、サイエンスカフェ等の催しの事前告知を行う。 年に1回ではなく、年に2,3回来館するリピーターの獲得を目指す。

② ウェブ媒体の活用

事　項	内　容	目　標
公式ウェブサイト	タイムリーにコンテンツを更新し、来館意欲のわくような、わかりやすい情報発信を行うとともに、利用者の利便の向上を図る。 6割以上を占めるモバイル端末からのアクセスに対してより良い情報提供を行うため、公式ウェブサイトをレスポンシブ化させて運用する。	レスポンシブ化させたウェブサイトを運用しつつ最適化していく。掲載情報を充実させ、来館につなげる。
Facebook、twitter等	ソーシャルメディアを活用し、ウェブ上での効果的な情報拡散を図る。	視覚的でタイムリーな発信を継続する。

③ マスメディア等の活用

事項	内容	目標
圏域5市広報紙	圏域5市の広報紙への記事掲載のために、科学館の最新情報を配信する。	圏域市民(特に50代以上)に対する広報媒体として、毎月2回、読者層に合わせたコンテンツを提供していく。
プレスリリース	テレビ局、新聞社、地元メディア等に、科学館の最新情報を配信する。	催しに合わせて適宜プレスリリースを行い、取材と幅広い周知につなげる。
取材協力	科学館に対する取材に積極的に協力する。	メディアとの関係を良好に保ち、科学館の認知度向上を図る。
撮影協力	内容を審査のうえ、テレビ番組、CM、雑誌等の撮影に協力する。	

④ その他広告媒体の活用

事　項	内　容	目　標
宣伝広告	圏域5市の主要な駅や地域紙などのメディアに広告を掲出し、認知度向上および利用者増加につなげる。	ウェブ広告、新聞折込や駅広告などを継続する。
案内広告・標識	東京電力電柱と消火栓に案内広告を掲出する。自動車の主要進入経路にあたる場所等に、案内看板を設置する。	現状を継続する。

2. 管理業務（運営管理）

（1）チケット発券・コンシェルジュ業務

館利用者に対し、入館チケットを発券するほか、利用者が滞在時間を最大限に楽しめるよう、一人ひとりに合ったプランの提供および内容案内、団体利用の予約受付と管理、事前見学や実地踏査、電話問い合わせ等の対応を行います。また、館内での迷子や交通案内等、利用者のさまざまな相談にきめ細やかに対応し、利用者満足度の向上を最優先とし、科学館の「顔」として、迅速で正確な対応と公平な態度を心がけます。

（2）安全管理業務

安全管理を徹底し、利用者の安心・安全・快適な環境の維持に努めるとともに、災害発生時に適切に対応できる安全管理体制を構築します。

また、「防犯」「防災」「緊急時の対応」を柱として作成した危機管理マニュアルを、職員全員に徹底を図るとともに、「緊急対策ポケットメモ」を携帯させて更なる意識啓発を図ります。

（3）設備管理業務

利用者満足度向上のための快適かつ機能的な環境を、中長期的な視点も交えて継続的に提供するとともに、当施設の公共性を自覚し、その目的の達成を施設維持管理面で支援します。

施設及び物品を適切に管理するとともに、指定管理業務に関する仕様書区分に基づいて維持管理を行います。また省エネルギー、省電力、節水に取り組み、環境に配慮します。

（4）駐車場の管理運営業務

新たな駐車場の運用に関し、科学館周辺道路において、利用者の駐車車両の交通誘導等を円滑に行い、利用者及び近隣住民の安全確保に十分な配慮をするとともに、利用者の利便性と収益性をともに満足できる運営体制を構築します。

3. 開館日及び開館時間

平成29年度の休館日及び開館時間を以下のとおりとします。

＜平成29年度休館日＞

区　分	休館日
月曜日　(36日) ・月曜日が祝日又は、振替休日の場合は開館する。 ・4月3日、5月1日、7月17、24、31日、8月7、14、21、28日、9月18日、10月9日、12月25日、1月8日、2月12日、3月26日は開館する。	4月　：　10日、17日、24日 5月　：　8日、15日、22日、29日 6月　：　5日、12日、19日、26日 7月　：　3日、10日 9月　：　4日、11日、25日 10月　：　2日、16日、23日、30日 11月　：　6日、13日、20日、27日 12月　：　4日、11日、18日 1月　：　15日、22日、29日 2月　：　5日、19日、26日 3月　：　5日、12日、19日
祝日又は、振替休日の翌日　(6日) ・4月30日、5月6日、8月12日、9月24日、11月4日、12月24日、2月12日、3月22日は開館する。	7月　：　18日(火) 9月　：　19日(火) 10月　：　10日(火) 11月　：　24日(金) 1月　：　9日(火) 2月　：　13日(火)
年末年始(7日)	12月　：　28日(木)、29日(金)、30日(土)、31日(日) 1月　：　1日(月)、2日(火)、3日(水)
プラネタリウム・展示のメンテナンス日 (4日)	4月　：　11日(火)、12日(水) 9月　：　5日(火)、6日(水)
消防訓練　(2日)	4月　：　13日(木) 9月　：　7日(木)
臨時休館日　(10日)	5月　：　9日(火)、10日(水)、11日(木) 9月　：　1日(金) 10月　：　3日(火)、4日(水)、5日(木) 1月　：　23日(火)、24日(水)、25日(木)

総休館日数　65日
平成29年度開館日数　300日　(設置管理条例・規則に基づく基本開館日数　292日)
(平成28年度開館日数　297日)

＜平成29年度開館時間＞

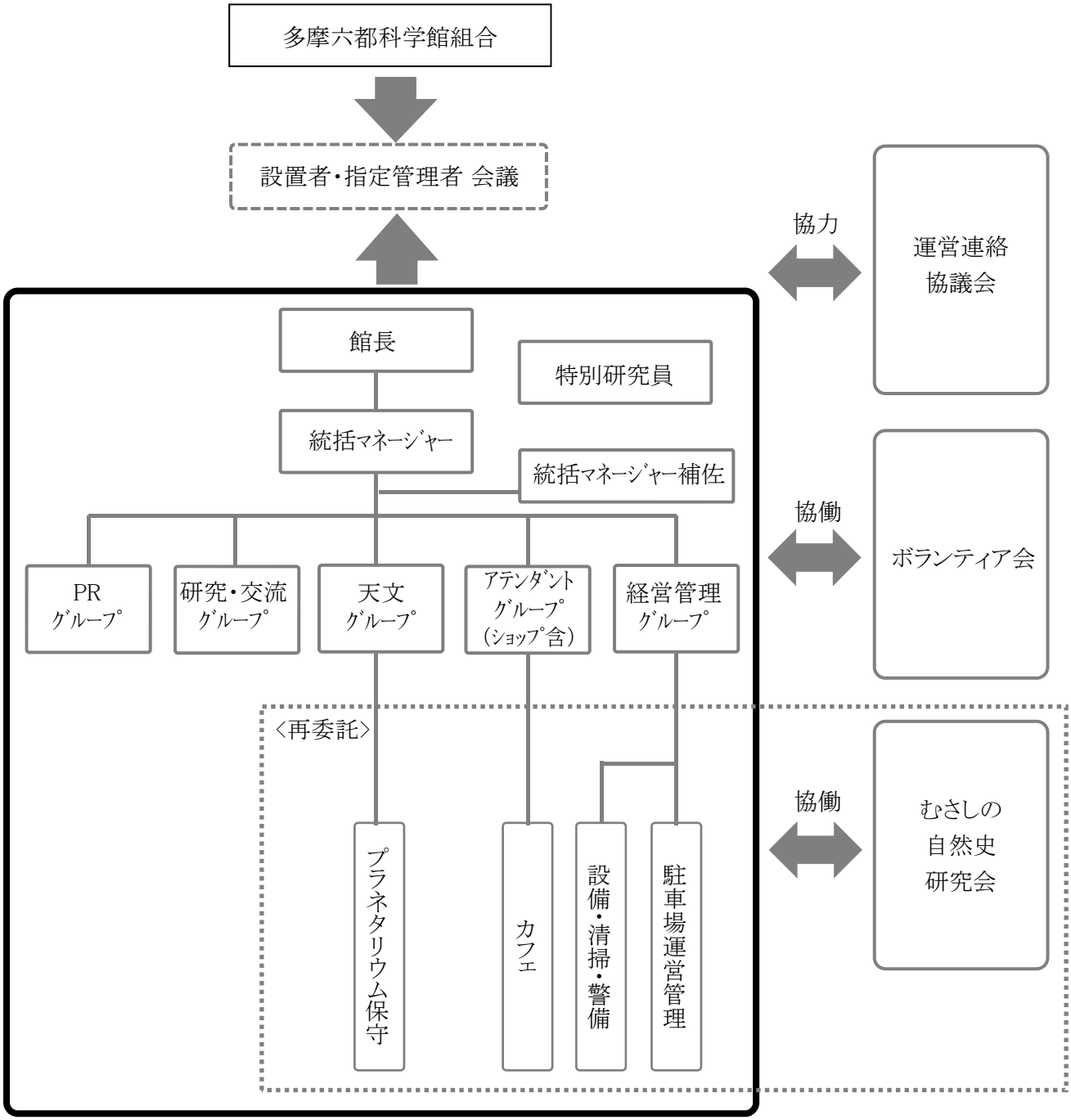
区　分	利用時間	時間延長等
科学館	午前9時30分～午後5時	(1)7月15日～8月31日は午後5時30分まで開館 (2)8月11日～15日は特別投影プラネタリウム実施のため、当該プラネタリウム利用者のみ午後6時45分まで利用可能 (3)夜間イベント(天体観望会等)に合わせて施設を開館
駐車場	午前9時15分～午後5時15分	(1)7月15日～8月31日は午後5時45分まで利用可能 (2)8月11日～15日の特別投影プラネタリウム観覧利用者は、午後7時00分まで利用可能 (3)夜間イベント(天体観望会等)に合わせて利用時間を延長

※設置管理条例・規則に基づく利用時間のほかに、事業プログラムに合わせて時間延長を図るなど、柔軟に対応をします。

4. 管理執行体制

平成29年度の組織・人員体制は以下のとおりとします。

（1）平成29年度組織体制



（2）多摩六都科学館運営連絡協議会

設置者とともに、運営連絡協議会を設置し、科学館の運営について協議を行うほか、事業計画について意見交換等を定期的に行います。市民に開かれた科学館運営を目標とし、地域との綿密な連携・協力体制を築きます。

（3）平成29年度指定管理者人員表及び職務分掌

<table>
<tr><th colspan="3">役　職</th><th>職務分掌</th></tr>
<tr><td colspan="3">館長　1名　（※非常勤）</td><td>館の顔として館外交を代表</td></tr>
<tr><td colspan="3">特別研究員　1名　（※非常勤）</td><td>館の学芸に関する指導・支援・コンサルティング</td></tr>
<tr><td colspan="3">統括ﾏﾈｰｼﾞｬｰ　1名</td><td>館全体の管理運営を総括、一部事務組合との協議窓口</td></tr>
<tr><td colspan="3">統括ﾏﾈｰｼﾞｬｰ補佐　1名</td><td>総合渉外、ローテーション調整、展示メンテ総合管理</td></tr>
<tr><td rowspan="2">経営管理
ｸﾞﾙｰﾌﾟ
（3名）</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td>財務の責任者、事業計画・事業報告の取り纏め、業務委託管理
総合設備管理</td></tr>
<tr><td colspan="2">常勤 2名</td><td>経理庶務、総務、電話等の問合せ対応、事務所来客応対</td></tr>
<tr><td rowspan="8">ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ
ｸﾞﾙｰﾌﾟ
（25名）</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td>利用者接点の責任者、カフェ及びミュージアムショップ担当</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ
ﾁｰﾑ
（12名）</td><td>ｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰ 1名</td><td rowspan="4">総合案内・チケット販売
団体予約管理
サイエンスエッグでの案内および安全管理</td></tr>
<tr><td>ﾁｰﾌ　1名</td></tr>
<tr><td>常勤　3名</td></tr>
<tr><td>非常勤 7名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ｲﾝﾀｰﾌﾟﾘﾀｰ
ﾁｰﾑ
（9名）</td><td>ﾁｰﾌ　1名</td><td rowspan="2">展示学習利用の促進・実地踏査対応
展示室の案内、解説、展示物メンテ補助</td></tr>
<tr><td>常勤　5名</td></tr>
<tr><td>非常勤 3名</td><td>展示室の案内、解説</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｼｮｯﾌﾟ　非常勤 3名</td><td>ミュージアムショップの運営</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究・交流
ｸﾞﾙｰﾌﾟ
（11名）</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td rowspan="3">生物・地学・理工分野に係わる教育普及・展示企画・研究活動
常設展示のメンテナンス</td></tr>
<tr><td colspan="2">常勤　9名</td></tr>
<tr><td colspan="2">非常勤 1名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">天文
ｸﾞﾙｰﾌﾟ
（7名）</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td rowspan="3">宇宙・天文に係わる教育普及・展示企画・研究活動</td></tr>
<tr><td colspan="2">常勤　4名</td></tr>
<tr><td colspan="2">非常勤　2名</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ
ﾘﾚｰｼｮﾝｽﾞ
ｸﾞﾙｰﾌﾟ
（6名）</td><td colspan="2">ﾘｰﾀﾞｰ　1名</td><td rowspan="3">マーケティング、広報、メンバーシップ運営
ボランティア会支援窓口
事前申込管理、学校連携、電話等の問合せ対応</td></tr>
<tr><td colspan="2">常勤 3名</td></tr>
<tr><td colspan="2">非常勤 1名</td></tr>
<tr><td colspan="2">主任研究員 1名</td><td>研究活動、学会等での論文発表、博物館相当施設としての発信</td></tr>
</table>

平成29年度　多摩六都科学館指定管理者　収支計画書

（千円）

区　分		内　訳	平成29年度予算
(A) 収入合計 （税込）			400,154
① 指定管理料			272,254
② 利用料金収入			110,800
	入館観覧料等		105,000
	駐車場使用料		17,000
	組合還元金		-11,200
③ その他の収入			17,100
	企画展・教室参加費・ラリーカード発行費		4,100
	広告掲載料（バナー広告）他		200
	ぐるっとパス共通チケット精算金		800
	補助金・協賛金・多摩島しょ		12,000

（千円）

区　分			内　訳	金　額
(B) 支出合計				400,154
① 管理運営人件費				168,000
	管理運営人件費（アルバイト含）			145,300
	福利厚生費		社会保険、福利厚生費	17,600
	通勤交通費			5,100
(C) 課税支出計 （税込） 運営管理人件費・福利厚生費・公租公課・一般管理費を除いた支出計				201,730
② 運営事務費				14,240
	賠償責任保険料		施設賠償保険	160
	旅費交通費		車両燃料を含む	720
	事務用品費			900
	消耗品費			500
	印刷費・製本費		封筒、名刺等	400
	通信費・運搬費・受信料		電話、郵便、宅配便、TV受信料等	1,900
	事務機器等リース（定額払い）			500
	カウンター式複写機（C5002） 印刷費		複写機借上げ及び印刷費	1,200
	館用車費用			320
	手数料（両替、他）		両替手数料等	20
	ユニフォーム		補充	100
	会費・負担金		日博協、全科協、日本プラネタリウム協議会他	300
	図書費・研修費		書籍、外部研修、セミナー等参加費	1,300
	発券機借上げ・保守点検			4,420
	会議費・交際費			700
	運営事務雑費		医務室布団丸洗い等	800
③ 科学館事業				62,890
	常設展示			10,250
		常設展示品・機材	展示物部分更新、ラボ機材	2,600
		保守・修理		5,150
		クイズラリー諸経費	ICカード、景品等	2,500
	特別展示			13,050
		春の特別企画展		3,800
		GW特別イベント		0
		夏の特別企画展		6,000
		秋の特別企画展		1,000
		冬の特別企画展		1,250
		ミニ企画展		1,000
	天文・映像体験学習事業			19,300
		ドーム映像コンテンツ番組		10,000
		保守・修理		8,800
		消耗品費		200
		備品費		300
	講座型学習事業			20,290
		講座・教室・イベント機材		4,140
		観察会・観望会	開催諸経費、地学・自然体験事業委託費	430
		館外活動保険料	館外事業保険料	20
		講師料		4,900
		サイエンスカフェ		400
		多摩島しょ子供体験塾		10,400

区　分			内　訳	金　額
④ 地域拠点事業				1,800
	ボランティア事業			1,400
		ボランティアワークショップ費		500
		ボランティア運営費		800
		ボランテイア保険		100
	友の会運営事業			200
	外部組織との連携事業			200
⑤ マーケティング事業費				15,300
	マーケットリサーチ諸経費（営業、広報活動、運営連絡協議会謝礼、他）			1,200
	広報費、印刷費			13,600
		科学館ニュース	印刷費・発送費	7,700
		カタログ・チラシ		1,300
		電柱広告・消火栓広告		3,800
		その他		800
	ホームページ運用維持管理費（WEB管理・更新）			500
⑥ 施設維持管理に係る経費				68,100
	維持管理業務委託費（再委託業務）			60,010
		清掃業務	日常清掃、定期清掃、維持管理消耗品	24,190
		設備運転保守管理業務	2ポスト配置	13,280
		付帯設備保守点検業務	EV、自動ドア、電話交換機、他付帯設備保守点検	11,120
		環境衛生管理業務	選任業務、空気環境、水質、残留塩素、受水槽清掃点検、害虫駆除	2,370
		警備・安全管理業務		7,990
		機械警備		450
		廃棄物処理業務		610
	その他施設管理費			8,090
		レンタル費		950
		施設維持管理改善費用		610
		照明交換	管球費	430
		館庭樹木・植栽等管理業務		900
		修繕費		5,200
⑦ 駐車場運営管理業務に係る経費				7,600
	駐車場運営管理業務			4,800
	駐車場警備誘導業務			1,300
	シャトルバス運行、新駐車場整備			200
	パーキングシステムリース費			1,300
⑧ 光熱水費等				25,500
	電気			22,000
	上下水道			2,700
	ガス			800
⑨ その他				1,200
	圏域市民感謝デー　（シャトルバス含む）			1,200
(D) 公租公課				14,724
	消費税・地方消費税　（預り消費税－仮払消費税の差額を計上）			14,698
	市町村税　（事業所開設にともなう市町村税）			0
	印紙税			26
(E) 一般管理費				20,800
	本社　スタッフ支援、給与計算、経理事務等			17,000
	シーズ・スリー　サポート業務			3,800
(A) 収入合計（税込み）　－　(B) 支出合計　（税抜き経費＋収入に対する預り消費税）				0

平成29年度　多摩六都科学館指定管理者　自主事業収支計画書

区分		金額	備考
(A) 収入合計		50,000	
① 事業収入		48,950	
	カフェテリア運営	33,950	
	ミュージアムショップ運営	15,000	
② 自動販売機ロイヤリティ		1,050	
③ その他収入		1,200	
	イベント開催	1,200	
	その他	0	

区分		金額	
(B) 支出合計		50,000	
① 事業運営人件費		14,527	
	カフェテリア直接人件費	10,217	
	ミュージアムショップ直接人件費	3,260	
	その他事業人件費振替	1,050	
② 運営事務費		20,882	
	カフェテリア食材仕入れ高	11,882	売上比35%
	ミュージアムショップ商品仕入れ高	9,000	売上比60%
③ 行政財産使用料		240	
④ その他		120	
	光熱費	120	
	その他	0	
一般管理費		14,231	